

会 議 録

会議名	平成24年度第1回市史編さん委員会議	
事務局	教育委員会生涯学習課	
開催日時	平成24年5月17日(木) 午前10時～11時30分	
開催場所	602会議室	
出席者	委員	阿部委員・根岸委員・松平委員・林委員・井上委員・小野委員・上原委員・津幡委員 牛米努さん(編集委員)
	事務局	井上・伊藤
傍聴の可否	◎可・不可・一部可	
	傍聴者：なし	
不可の理由		

会 議 次 第

1 開 会

小金井市史編さん委員の委嘱状交付及び任命について
 小金井市史編さん委員紹介
 事務局紹介

2 議 事

- (1) 小金井市史編さん委員長の選出
- (2) 報告・議事内容
 - 1) 平成23年度事業報告
 - ①市史編さん委員会
 - ②部会の活動
 - ③市民協力員の活動
 - ④古文書調査委託
 - ⑤『市史編纂資料第51編』の編集発行について
 - 2) 平成24年度事業計画・予算

3 閉 会

[配布資料]

- 資料1 小金井市史編さん委員会委員名簿
- 資料2 小金井市市史編さん大綱・年次計画
- 資料3 平成24年度事業予算
- 資料4 近代・現代部会報告

会 議 内 容

(要点筆記)

(小野副委員長)

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、平成24年度第1回市史編さん委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

委員長の吉原健一郎先生が、3月22日に逝去されましたので、市史編さん委員会条例第5条第2項の「委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を行う」の規定により、新委員長が決まるまでの間、司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

吉原先生の後任としまして1号委員に松平康夫さん、3号委員に教育長に就任された津幡道夫さんをそれぞれ4月1日付けで委嘱してございます。なお、副市長の上原秀則さんにつきましては、2月1日付けで委嘱をしております。

事務局から委嘱状の交付をお願いします。

(西田部長) 生涯学習部長の西田です。任命権者の市長に代わり委嘱状の交付をさせていただきます。それでは、松平委員をお願いします。次に、津幡委員をお願いします。

(小野副委員長)

委嘱状の交付が終わりましたので、つづきまして、改めて自己紹介をお願いします。

(阿部委員)

阿部です。

(根岸委員)

根岸です。編さんでは近世を担当しています。よろしくおねがいします。

(松平委員)

現代編の編集委員を務めています。これからもよろしくお願いいたします

(小野委員)

先ほどごあいさつしました副委員長の小野です。よろしくお願いいたします、

(上原委員)

2月1日付けで副市長を拝命しました上原です、この委員会にも委員として出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

(林委員)

林でございます。選挙管理委員会の委員長を務めております。どうぞよろしくお願いいたします。

(井上委員)

市民代表として選ばれております。小金井市には22年程住んでおりまして、現在男女平等推進委員会の委員長を務めています。フェリス女子大で、近代の女性教員について研究しています。よろしくお願いいたします。

(津幡委員)

津幡と申します4月1日付けで教育長を拝命しました。よろしくお願いします。

(牛米編集委員)

この会には、オブザーバーとして出席しています。近代部会の牛米です。よろしくお願いします。

(小野副委員長)

ありがとうございました。続きまして、事務局の紹介をお願いします。

(西田部長)

生涯学習部長の西田です。よろしくお願いします。

(井上課長)

生涯学習課長と文化財係長を兼務し、この市史編さん事業の事務全般を担当いたします井上です。よろしくお願いします。

(伊藤)

引き続き担当します伊藤です。よろしくお願いします。

西田部長は、公務のためここで退席させていただきます。

(小野副委員長)

次に、委員長の互選について、でございます。委員長の互選につきましては、「小金井市史編さん委員会条例」第5条第1項に、委員の中から互選するとなっております。選出の方法は、推薦によりたいと思います。どなたか推薦される方はいらっしゃいませんか。いかがでしょうか。

副委員長の推薦で根岸委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょう。

(委員一同)

異議なしの声。拍手。

(小野副委員長)

ありがとうございます、それでは、ここで根岸委員長に代わります。よろしくお願いします。

(根岸委員長)

根岸です。小金井市では、昭和50年代に、伊藤好一先生が古文書の調査や文化財で活躍されていて、私も大学院時代から伊藤先生のお手伝いとして小金井の古文書の筆写や整理に関わってきました。私は近世が専門ですが、今後、さまざまな分野の先生方にご協力をいただきながらよりよい市史を作っていきたいと考えています。よろしくお願いします。それでは、事務局より報告をお願いします。

(事務局：伊藤)

平成23年度の市史編さん事業について、口頭で報告いたします。

①市史編さん委員会は、5月16日(月)、10月3日(月)、2月6日(月)、3回実施しました。委員会では、部会活動・市民協力員の活動について報告をいただき、今後の活動等について協議しました。

②部会の活動は、近代・現代部会の活動が行われ、各部会とも、月1回の部会を文化財センターで行い、各調査員が活動報告と資料調査を実施しました。近世部会に

については、まだ、本格的な活動は行われておりません。後ほど、担当の委員にご報告をお願いします。

③市民協力員の活動は2名で行いました。畑野さんについては、詳細年表の作成と、南関野の島田良一家文書の目録作成を実施しました。この資料は、文書 2371 点、教科書等書籍 850 点、手帳（ノート）類 150 点と膨大なものでした。明治初年から戦前期までの貴重な資料群であり、市史編さんに役に立てていただきたいと考えています。金井さんについては、牛米編集委員から依頼により事務報告書の入力、予算書の項目の款の集計、議会会議録の中の重要な資料の入力をやっていただきました。

④古文書調査委託は、根岸茂夫委員に委託し、大久保家文書の筆写を行いました。今回で、大久保家文書の筆写はほぼ終了しました。

⑤『市史編纂資料第 51 編』の編集発行は、下小金井村星野家文書を行いました。
（根岸委員長）

事務局の報告に対して質問はありますか。

特になければ、次に平成 24 年の事業計画・予算について説明願います。

（事務局・伊藤）

資料 4 の予算書をご覧ください。報酬は、市史編さん委員長 1 人、委員 5 名、年 3 回の会議を予定しています。非常勤嘱託職員は、文化財センター業務と兼務で、文化財センターに 3 名が勤務しており、市史編さんにかかる事務を行います。報償費は、編集委員 3 名で、月額報酬としています。調査員謝礼は、近世・近代・現代の 3 部会の調査員の謝礼で、600 人日として計上しています。協力員は 1・2 名を予定しています。原稿執筆謝礼は、近代資料編・現代資料編の解説文執筆の謝礼金を計上しました。需用費のうち、印刷製本費は、市史編纂資料第 52 編の印刷製本費で、大久保家文書の発行を考えています。古文書調査委託料は、古文書の筆写謝礼金です。梶野家文書の筆写を考えています。

（根岸委員長）

事務局の説明に質問がありますか。

なければ、協議事項に移ります。

（事務局：伊藤）

その前に、部会からの報告をお願いします。

（牛米編集委員）

月 1 回、近代部会を開催しています。打合せの後に、この地域で発見された近代史料を幕末ごろまで含めて全て見ることにしています。その中から、分担を決めて、史料集に載せるべき史料を選別、リストアップ中です。本来ですと、そろそろ章立てを考え、委員会にお諮りしていかなければなりません。まだ見ていない史料が半分ほど残っていますので、もう少し全体に目を通してから、市民協力員にお願いした決算の統計数値等も参考に、分析を加えながら全体の章立てを作っていきたいと考えています。

(松平委員)

現代部会から報告いたします(資料配布)。近代部会と同様に月1回程度の部会を開催しています。私を含めて4人が分担をしながら進めています。町制施行時から、戦時体制期(1930~40年代)頃の都市化が戦後の小金井町・小金井市の形成に大きな影響を与えています。また、戦前から連続している点と非連続の点があり、戦時期の都市計画と戦後の都市計画を統一的に見ていかなくてはいけません。史料収集に苦慮している面もあります。また、調査員の努力によって、いい史料も見つかっており、資料編や通史編に寄与できるような蓄積づくりをやっていきたい。現代部会としての要望(課題)は、現在に近づくに従い、関連情報が飛躍的に増大するので、作業上からも、早く終期を決めていただきたい。理想からいえば、市制施行50周年の平成22年度までですが、調査員体制が追いつかない。方法論としては、簡略化することもあります。いい史料を後世に残したいと考えています。調査員の具体的な調査活動では、国立公文書館や宮内公文書館から、戦前の都市計画、第直地に関する史料が見つかっています。

次に、小金井市が発足してから現在の市政に至るまでの歴代の市長の市政のあり方について、施策と社会的背景を主に市報記事を中心に分析し、整理しています。キーワードとしては、「ゴミ問題」・「市民参加」・「財政健全化」・「リース庁舎計画」・「再開発事業」があげられます。市政の大きな課題としては、特に「二枚橋衛生組合の成立と解散過程」があげられます。この問題は、市政に通じている市の職員の協力が必要です。また、『二枚橋衛生組合史』(2011年発行)を作った時に収集した資料が、発表、未発表資料を含めどこにどういったかたちで残っているかを教えてください。出版されると、基になった資料が散逸してしまうことは、どこでもよくあることです。資料あるか否かで、資料集の中味が変わってくるので、資料が出てくることを期待しています。

(根岸委員長)

有難うございました。重要な問題提起をしていただきました。市史編さんの終期を何時にするか、早めに決める必要があります。編集委員・調査員・事務局で話し合うことが必要です。他市で、終期をいつにしているかということと、どう考えたかという点を合わせて検討してみたらよろいしかと思います。

他にお考えがありましたらご発言願います。

(津幡委員)

現代史で現在の稲葉市政まで扱うとなりますと、生々しい評価につながります。他市ではどう載せているのか。客観的に載せるか、評価を含めて載せるかでは、取り組みの厳しさが出てくると思います。一般的にはどう考えているかご意見をお聞きたい。

(松平委員)

今の市政をどう扱うかは、どこの自治体史の現代編でも直面する大きな課題です。しかし、どちらかといったら、通史編に比べ資料編の方がクリアーできる点が多い

ものです。資料編は、許容範囲を広げてもいいと考えます。もちろん、市長のプライバシーに関することは当然避けるべきですが、行政施策に関すること、客観的なものは、問題はないと考えます。むしろ今の市政に関して、終期をどこにするかが問題です。平成になったら分量が減るとか、全体構成の中で考えていくことが必要です。近年の「自治体史における刊行年と記述終期の関係について」は、近隣市の市史を悉皆調査をした一覧表がありますので、参考にしていただきたいと思います。

(根岸委員長)

私は、近世しか担当したことはありませんが、通史編を見みますと、最後の方は、事実関係が並ぶかたちで、行政の発展を期待する記述が多いかと思いますが、通史編と資料編とは別のものと考えた方がいいと思います。たとえば、2000年迄の叙述をするのに、2005年までの関係資料は必要となるし、資料としては新しいものが入ってもよい気がしています。通史編では叙述をどこまでするかが一番問題と思っています。

(松平委員)

資料編を作る目的は、一般に通史編を作るための基本文献と位置付けられますが、同時に、市民にとって、また、地域の研究者にとって通史編では触れられなかった多くの資料を載せることが必要と考えます。情報公開と同じで、プライバシーに触れない限り載せるべきで、資料編は許容範囲が広いと考えます。

(根岸委員)

どこの自治体史でも、資料編に載ったものが、全て通史編で触れられるわけではないので、松平先生のご意見のように、同じことはどの時代でもあると思います。

(松平委員)

かつては、極端な場合は、現代編は市(区)当局が書くといったことがありましたが、流石に今はありません。「臭いものには蓋」ではありませんが、生々しい部分は、行政当局と協働作業ということになると思います。

(津幡委員)

一般的に、載せるものと載せないものを区別する常識的な線があると考えてよろしいのでしょうか。

(松平委員)

そうですね、そのために、過去の自治体史の目次構成を悉皆調査したものがあります。小平市・府中市・八王子市等です。これ等、他市の市史の目次構成を参考にしながら、小金井独自のものを出していただければいいと思っています。

(根岸委員長)

私が若い時に教わったことがあります。ある先生が「個人の歴史には伝記がある、会社には社史があるように、自治体史は、自治体の顔であり、自治体の特徴を表現する場所である。その時の筋となるものは、自治の伝統やその発達がどう出てくるかであり、それを自治体史の核にしなければならない。」といわれたことがありま

す。私も多摩地域や埼玉県で自治体史の編纂に多く関わってきました。そうした経験の中でも、自治の伝統がどのように形成されてきたかを核にして書こうと思ってきました。そんなことを皆さんとやっていきたいと考えています。

(松平委員)

委員長のご意見に同感です。自治の問題は、現代編でも強く感じます。三多摩格差という問題があります。今でも尾を引いていますが、調べていくと、都政とのせめぎあい大きい、三多摩格差は、戦時期から正確には明治から始まっています。資料編を作るときには、その辺の認識といて持っていなければいけないと思います。

(牛米編集委員)

昔は、自治体史を日本史の教科書通りに記述することが行われていましたが、最近ではなくなったとはいえ、まだ違うなと思うことがあります。小金井市には、明治17年からの会議録が残っています。議会関係の資料、予算・決算書等です、明治期の決算書等を見ていくと、明治30年代になると独自の財源(税金)をどう確保していくかが大きな問題となってきます。それを何に使うか、村外にいる地主に多く課税しようとかしている。こんなことに注目すると、もっと見方が変わってきます。小金井市には材料はいろいろあるので、うまく使えば面白い資料集ができるのではないかと考えています。

(根岸委員長)

他に何かご意見がありますか。

基本的な考え方は、編さん委員、編集委員の皆さんで考え方が一致したような気がします。そうした考え方で、今後よりよいものを作っていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

次回の会議日程

10月15日(月) 10:00から602会議室

3 閉会

(根岸委員長)

以上で、平成24年度第1回小金井市市史編纂委員会を終了します。

以上